

## 栃木県における痴呆性高齢者グループホームの現状について

### Research on the Present Condition of Group-Homes for the Elderly with Dementia in Tochigi Prefecture

六反田 千 恵

Chie Rokutanda

柗 崎 京 子

Kyoko Fukizaki

新 井 茂 光

Shigemitsu Arai

#### 要約

本研究は、痴呆性高齢者グループホームの現状を把握することを目的に、栃木県を調査地域として質問紙調査を実施し、集計と考察を試みたものである。調査内容は、①概要、②設立経緯、③建築内容、④運営、⑤入居者の状況を把握するための基本項目類と、⑥入居者の生活の様子、⑦地域との関わり、⑧今後の課題についての自由記述項目である。各項目の分析を経て、入居者の生活状況と地域との交流状況について、日常的状況とイベント的状況に分け、相関関係を抽出した。結果、社会福祉法人はイベント的交流に積極的、NPO法人・営利法人は日常的・自発的な交流に積極的、医療法人は交流については慎重であるというグループホーム運営主体の種別による傾向を示唆した。また、一方で、職員体制・受入の基準・地域との交流の契機や方法・入居者の要介護度の進行にともなうターミナルケアをどうするかなど多くの課題を抱えていることが分かった。

キーワード：痴呆性高齢者グループホーム、生活状況、地域交流、栃木県

---

住居学科	六反田千恵
社会福祉学専攻	柗崎 京子
非常勤講師	新井 茂光

## 目次

- I はじめに
- II 調査方法について
- III 結果と考察
  - 1 概要
  - 2 設立経緯
  - 3 建築内容
  - 4 運営状況
  - 5 入居者の状況
  - 6 入居者の生活の様子
  - 7 地域との関わりと今後の課題
  - 8 日常生活における地域との交流状況
  - 9 行事を中心に見た地域との交流状況
- IV まとめ
- V おわりに

## I はじめに

介護保険制度の居宅サービス事業に痴呆性高齢者グループホーム（以下グループホームと略す）が組み入れられて5年が経過している。しかしながら、グループホームにおけるケア実践の蓄積は、少数の民間小規模施設での蓄積を除いて、国のモデル事業開始から10年にすぎない。小笠原が指摘するように、グループホームこそ痴呆高齢者介護の切り札としてセンセーショナルに紹介されたが、その根底にある痴呆高齢者への専門援助に関しては十分な蓄積と認識の広がりもなく、また痴呆高齢者ケアの実践とその科学的な分析、総括も十分でないままグループホームが登場してきた歴史があった<sup>1</sup>。グループホームの意義は、単に痴呆高齢者が小規模の居住施設で共同生活する場所ということではなく、そこで特別に訓練を受けたスタッフが痴呆病状の治療、回復、安定など専門的治療的援助を行う点にあるにも関わらず、日本では小規模が先行的に理解され、なぜ小規模に意味があるのかについての科学的な吟味が不十分なままであった、という。したがって介護保険が施行されて5年もたたないうちに、痴呆介護の切り札とされていたグループホームの運営やそのケアの質に疑問がもたれ、建設に規制がかかるといった県も出始めている。

本論では、なぜグループホームが必要なのか、なぜグループホームが痴呆高齢者ケアに適切なのかについて科学的な根拠を探るための基礎研究として、建設に規制がかかった県の一つである栃木県のグループホームを対象として、グループホームの全体像とその直面

する課題を明らかにすることを目的としている。

## II 調査方法について

栃木県を調査地域とし、痴呆性高齢者グループホームを調査対象とした。(以下、本論では「痴呆性高齢者グループホーム」を「GH」と省略表記する。)

2003年6月現在運営状況にあるGH39件に郵送法による質問紙調査を実施した(同じ法人運営で同敷地内に建つ3件は、実質3ユニットからなる1施設と見なすのが適当であり、実際、代表して1件から回答があった。従って、実質的な調査対象施設数は37件)。回収率51.4%(19件)。調査期間は2003年6月～7月である。

質問紙調査の内容は、①概要(開設主体、法人登記年度、開設年度)、②設立経緯、③建築内容、④運営(ユニット数、ユニット定員、職員体制、ボランティア)、⑤入居者の状況(年齢、性別、要介護度、平均入居期間、入居前の居住地)を把握するための基本項目類と、⑥入居者の生活の様子や⑦地域との関わりを把握するための項目類、⑧今後の課題についての自由記述項目によって構成した。

## III 結果と考察

### 1 概要

概要についての回答を表1にまとめた。開設主体・運営主体の種別は、社会福祉法人(特別養護老人ホームと回答したものも含める)7件(36.8%：全国27.3%)、医療法人(病院と回答したものも含める)5件(26.3%：全国22.4%)、営利法人6件(31.6%：全国42.8%)、NPO法人1件(5.3%：全国6.2%)の5種類であった。

2003年時点の全国統計<sup>2</sup>に対してその構成比は、営利法人が約1割少なく、社会福祉法人が1割近く多い。医療法人とNPO法人については、全国と比べても5%以下の相違

表1 調査対象GHの概要

調査番号	開設主体	運営主体	法人登記年度	事業開設年度	調査番号	開設主体	運営主体	法人登記年度	事業開設年度
1	社会福祉法人	社会福祉法人	1998.7	1999	12	社会福祉法人	社会福祉法人	1980.12	2003
2	社会福祉法人	特別養護老人ホーム	記入なし	2002	13	社会福祉法人	社会福祉法人	1994.1	2003
3	社会福祉法人	社会福祉法人	1995.11	2002	14	社会福祉法人	社会福祉法人	1985.3	2001
4	社会福祉法人	特別養護老人ホーム	記入なし	2002	15	医療法人	病院	2003.4	2003
5	医療法人	医療法人	1954.4	1999	16	医療法人	医療法人	1991	2002
6	医療法人	医療法人	1994.4	2001	17	株式会社	株式会社	記入なし	2002
7	医療法人	医療法人	1989.1	2000.3 2001.4 2002.1	18	株式会社	株式会社	記入なし	2003
8	株式会社	株式会社	1974.1	2002	19	有限会社	有限会社	2002.7	2003
9	有限会社	有限会社	2001.11	2002	*開設主体・運営主体については回答のままに表記しているが、本論では特別養護老人ホームとなっているものに関しては社会福祉法人、病院となっているものに関しては医療法人として扱う。				
10	有限会社	有限会社	2000.12	2001					
11	NPO法人	NPO法人	1990.11	2000					

にとどまっている。社会福祉法人のうち回答のあった5件の法人登記年度は、1980、85、94、95、98年とGH開設よりも遡り、営利法人の進出が少ない分、地域で実績のある社会福祉法人によって介護サービスが提供されていると考えられる。

一方で、事業開設年数からみると、1年未満のもの5件(26.3%)、1年以上2年未満のもの7件(36.8%)、2年以上3年未満のもの4件(21.1%)、3年以上のもの3件(15.8%)であった。GHが介護保険の対象となってから4年目の時点での調査であるため、開設年数の少なさは当然であるが、毎年着実に増加していることが分かる。

作表は、まず開設年数が1年未満のもの(調査番号1～11)とそれ以外のもの(調査番号12～19)に大別し、次に開設主体・運営主体の別を加えてアレンジしている。また、当調査の後に行ったヒアリングを主体とする調査<sup>3</sup>との整合性を保つため、調査番号14は開設期間が1年を超えているが、1年未満のほうに入れていく。

## 2 設立経緯

設立を検討しはじめた時期(「いつ」)については、無記入3件と事業開設年度としたもの7件を除いた9件について分析を加える。設立の検討を始めてから事業開設までにおおよそ1年間の準備期間を費やしているものが7件(77.8%)、2年1件(11.1%)、3年1件(11.1%)である。その他、記述回答の内容から、2年以上を要しているものが1件あった。1年を超える準備期間を要している3件については、いずれも検討開始が1999年ないしそれ以前であり、介護保険制度発足前後であることから、新制度の活用パイオニアとして取り組んだという背景が関係しているであろう。こうしたパイオニアを除けば、GHの設立には、平均約1年の準備期間が費やされている。

GHの設立方法については、県の既存施設活用型基盤整備促進事業の補助を受けたもの1件・町の施設整備計画の委託を受けたもの1件と、公的機関との連携・支援が明記してあるものが計2件あった。医療法人・株式会社の全額自己出資が各1件、有志で合同出資が1件、運営について補助金制度を利用していないという回答が1件あった。無回答は4件である。

設立の目的については、家庭的な環境や小規模介護をあげたものが3件、利用者の自立した生活・残存能力に応じた日常生活・人権や意思の尊重などをあげたものが3件、既存のデイサービスやケアハウス・特別養護老人ホームなどでのノウハウの活用が2件あった。

## 3 建築内容

新築17件(89.4%)、既存建築物改修2件(10.5%)と、新築が圧倒的多数を占めた。既存建築物改修の2件はいずれも元学生寮と元社員寮で、一般住宅ではなかった。GHの開設にあたっては、家庭的な雰囲気づくりのために住宅等のリフォームで運営することも

認められている。しかし、現実的な問題として、9名のユニット定員を充足できる一般的な既存住宅はごく限られており、設置の基準に合わせるためには相応の改造資金が必要であることなどから、むしろ新築のほうが設立・運営しやすいケースもあると考えられる。既存建築物改修のうち1件はユニット定員が6名となっており、こうした事情を反映していると考えられる。

ちなみに、改修の2件の運営主体はそれぞれ有限会社とNPO法人である。社会福祉法

表2 GHの設立経緯について

調査番号	いつ	事業開設年度	だれが	どのようなかたちで
1	1999	1999	社会福祉法人	DSおよびケアハウスの経営をしていて、痴呆の方が多く見られたので、福祉法人として設立
2	1999	2002	社会福祉法人理事会	痴呆性老人GH設立準備委員会を理事と職員で立ち上げて、視察・研修などを行い、設立にいたる
3	2001	2002	社会福祉法人	理事会にて決議
4	記入なし	2002	社会福祉法人	記入なし
5	1998(春)	1999	医療法人	家庭的な環境のもとで自立した日常生活を営めるように適正な介護を提供することを目的として設立。
6	2001	2001	医療法人	痴呆状態の方に対し、共同生活住居において家庭的環境の下で入浴・排泄・食事の介護、その他の日常生活及び機能訓練を行うことにより、利用者がその有する能力に応じた日常生活を営むことができるように援助することを目指している。
7	1999	2000.3 2001.4 2002.1	医療法人 役員会において	当時GHは近隣市町村にはなく、痴呆高齢者やその家族のニーズに十分応えられない状況。既存の事業運営のノウハウを活かしたユニットケアを実施できるGH設置を計画。その後、入居によって痴呆症状の改善が見られることなどから、ユニットを増加。
8	2002	2002	会社代表取締役	DS、GHを中心として地域に根ざし、利用者の人権・意志を尊重した介護を目指します
9	2001	2002	病院勤務者4名	勤務先の病院の統廃合に伴い、合同出資し有限会社設立。県に許可申請しながら、前年より準備してきた新築グループホームを購入した土地に設立。
10	2000	2001	有限会社	親会社の全額出資で、有限会社を設立。
11	2000	2000	個人	グループホームにふさわしい家を探し始めてから2年目にみつきり、以前は近くの工業高校の寮で築30年の学生寮だった建物を家賃6万円で20年契約。改修が必要で、改修費獲得のため県・市に訴え、NPO法人としては初めての県単事業である既存施設活用型の基盤整備促進事業の適用を受け、改修費600万のうち500万の補助をうけ、行政の担当者の協力と理解を頂き資産のないNPOよりグループホームを設立した。
12	2003.5.1	2003	社会福祉法人	記入なし
13	記入なし	2003	記入なし	記入なし
14	1999	2001	社会福祉法人	町の痴呆性高齢者の施設整備計画によって、当法人が町より委託を受けて、1999年より整備を開始、2001年開設。
15	2002	2003	法人理事長	補助金制度を利用せず、自主運営
16	2002	2002	医療法人	2ユニット 18人で
17	2002.10.1	2002	建設会社	もともと輸入住宅の会社。2階建てアメリカン輸入住宅を新築、職員介護経験のあるスタッフを雇用。
18	記入なし	2003	記入なし	記入なし
19	2002.1	2003	脱サラした夫婦で法人設立	ホーム長及び事務長予定者が各種セミナー・GHフォーラム等で研修して。

\*表中下線は以下を示す。公的機関との連携、自己資金、家庭的・小規模介護、利用者の自立／尊厳、既存のノウハウ活用。DSはデイサービスの省略表記。

表3 GHの建築内容について

調査番号	運営主体	建築物	備考*	調査番号	運営主体	建築物	備考*
1	社会福祉法人	新築	既存施設あり(ケアハウス他)	12	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養、敷地は別)
2	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養)	13	社会福祉法人	新築	既存施設あり(デイサービス他)
3	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養)	14	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養、老健)
4	社会福祉法人	新築	既存施設あり(特養)	15	医療法人	新築	
5	医療法人	新築	既存施設あり(老健)	16	医療法人	新築	既存施設あり(医院)
6	医療法人	新築	既存施設あり(老健)	17	株式会社	新築	建設会社
7	医療法人	新築	既存施設あり(老健)	18	株式会社	新築	
8	株式会社	新築	輸入住宅の会社	19	有限会社	新築	
9	有限会社	新築		*備考欄には、アンケートの回答からではなくWAM-NETより併設施設の有無の情報を集計側で加えている。			
10	有限会社	元社員寮改修					
11	NPO法人	元学生寮改修					

人や医療法人に関しては、特別養護老人ホームや老人保健施設のような既存施設の敷地内にGHを新しく併設している例がほとんどである。

#### 4 運営状況

各グループホームが保有するユニット数は、3ユニット4件(定員27名)、2ユニット7件(定員18名)、1ユニット8件(定員9名7件、定員6名1件)。有限会社GH3件とNPO法人GH1件はいずれも1ユニットであった。

表4 GHの運営状況について

調査番号	運営主体	ユニット数	合計定員(名)	受入対象者要介護度	常勤(名)		非常勤(名)		ボランティアについて
					専従	兼務	専従	兼務	
1	社会福祉法人	1	9	1-3	2	1	2	0	
2	社会福祉法人	2	18		4		11		
3	社会福祉法人	1	9		4		3		
4	社会福祉法人	1	9	1-5	4	1	1		
5	医療法人	1	9	1-5	7	0	0	0	受け入れ可
6	医療法人	3	27	1-5	15	21	3	0	
7	医療法人	3	27	1-5	21	0	0	0	随時受け入れ
8	株式会社	2	18		10	1	5		
9	有限会社	1	9	1-5	8				
10	有限会社	1	9	1-2・3	6	1	2		
11	NPO法人	1	6	1-4	3	1	4	2	
12	社会福祉法人	2	18	1-5	6	0	6	0	なし
13	社会福祉法人	2	18	1-3	0	2	15	0	準備中
14	社会福祉法人	3	27	1-5	21	0	0	0	地域の人々によるイベント
15	医療法人	2	18	1-5	5	3	1	1	
16	医療法人	2	18		7	0	7	0	
17	株式会社	2	18		9	0	3	0	1名(高校生)
18	株式会社	3	27		7	0	0	0	月2~3回、歌・踊り・マジック・フラワーアレンジメント等。
19	有限会社	1	9		4	0	3	0	なし

\* 空欄は、記入のないもの



受け入れ対象者については無記入 7 件、要介護度 1～5 が 8 件、1～4 が 1 件、1～3 が 3 件であった。後述する「今後の課題」への回答で、要介護の高い入居希望者の受け入れをあげるケースもあり、受け入れについては、個々の GH・入居者の状況によって、流動的に判断しているようである。

職員体制については、回答方法にばらつきがあり、また、WAM-NET に掲載されている情報との不一致も見られたため、今回は分析を控える。併設施設職員と GH 専属職員の区別、兼務職員のあり方など、GH の職員体制づくりが模索段階にある可能性も考えられる。

ボランティアの受け入れについては、随時受け入れ可とするもの 1 件、レクリエーションやイベントに協力してくれるボランティアが 2 件、高校生ボランティアが 1 件あった。しかし、無回答 11 件、なし・準備中 3 件、受け入れ可 1 件と、全体的にはあまり積極的とはいえない。認知上の障害を持つ痴呆性高齢者が落ち着いて生活できるように、家庭的ななじみの環境をめざす GH と、不定期・不特定多数のボランティアの受け入れは、なじまない部分があるとも考えられる。

## 5 入居者の状況

平均年齢がもっとも高かったのは 88 歳（医療法人 GH）で、その他は 80.5～84 歳までに分布している。各 GH 内の人数を無視した平均年齢の平均は 82.83 歳である。また、入居者のうち男 38 名（15.3%）、女 210 名であった。

各 GH 入居者の要介護度平均は無回答 1 件をのぞき、1.56～3.63 までに分布している。最も高い 3.63（有限会社 GH）は次点の 2.93 と大きく離れており、やや特殊なサンプルといえるだろう。各 GH 内の人数を無視し、GH 毎の平均要介護度の全体平均は 2.31 である。

平均年齢・入居期間と平均要介護度の関係については、グラフ 1・グラフ 2 にまとめた。平均入居期間が 5 ヶ月～10 ヶ月のグループ A には、やや比例的な関係が見られるが、平均入居期間 5 ヶ月未満のグループ B はむしろ入居時の要介護度を反映していると思われる。また、平均年齢についても 81 歳から 84 歳までのグループ C にはやや比例的な関係が見られるが、曖昧である。いずれもサンプル数に対して例外の比率が高く、関係性については言明できない。

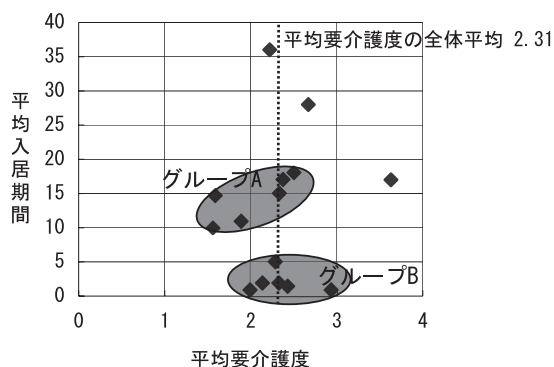
それに対して、1 ユニットのみからなる小規模な GH 8 件のうち 6 件が、平均要介護度において全体平均を超えていることは注目に値する。入居者の受け入れ基準に関する GH 運営の判断が関係している可能性もある。しかし、GH 制度自体にまだ 4 年を超える実績がないことを考えると、入居者の要介護度の進行状況やそれが及ぼす GH 運営への影響は未知数である。

入居以前の居住地に関しては、同一市町村内 157 名（62.8%）、県内 79 名（31.6%）、県外 14 名（5.6%）と、全体では同一市町村内からの入居者が過半数を占める。全体の傾

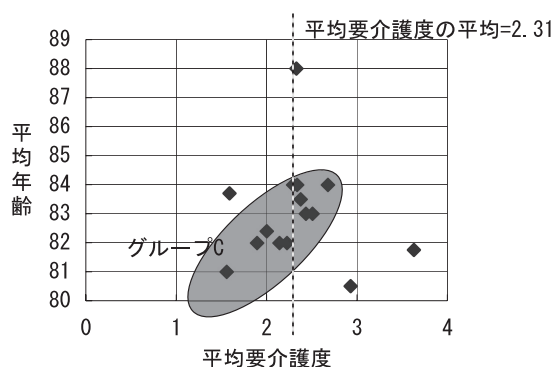
表5 GH入居者の状況について

調査番号	運営状況		入居者状況				入居以前の居住地			要介護度平均	要介護度(名)					
	運営主体	ユニット数	平均年齢(歳)	年齢の範囲(歳)	平均入居期間(月)	男(名)	女(名)	同一市町村内(名)	県内(名)		県外(名)	1	2	3	4	5
1	社会福祉法人	1	84	74-89	28	0	9	3	6	0	2.67	2	2	3	1	1
2	社会福祉法人	2	81	62-95	10	1	17	14	4	0	1.56	8	10	0	0	0
3	社会福祉法人	1	82	61-94	記入なし	2	7	8	1	0	2.33	2	3	3	1	0
4	社会福祉法人	1	84	79-93	記入なし	0	9	8	1	0	2.67	1	3	4	0	1
5	医療法人	1	82	75-89	36	1	8	5	4	0	2.22	2	5	0	2	0
6	医療法人	3	83.5	69-95	17	4	23	22	3	2	2.37	4	12	9	1	1
7	医療法人	3	83.7	71-95	14.7	2	25	8	15	4	1.59	14	11	1	1	0
8	株式会社	2	82	68-95	11	6	12	12	6	0	1.89	8	6	2	2	0
9	有限会社	1	81.75	68-89	17	2	6	1	4	3	3.63	0	1	3	2	2
10	有限会社	1	81	75-89	記入なし	0	9	8	1	0	1.67	4	4	1	0	0
11	NPO法人	1	83	73-90	18	1	5	3	2	1	2.5	1	2	2	1	0
12	社会福祉法人	2	80.5	68-91	1	2	13	13	2	0	2.93	2	3	6	2	2
13	社会福祉法人	2	82.4	71-94	1	3	7	8	4		2	4	5	2	1	0
14	社会福祉法人	3	84	65-100	15	6	21	12	13	2	2.33	6	11	6	3	1
15	医療法人	2	88	84-94	2	0	3	3	0	0	2.33	1	1	0	1	0
16	医療法人	2	84	77-98	5	2	15	7	8	2	2.29	6	4	4	2	1
17	株式会社	2	82	65-89	5	2	11	12	1	0	—	記入なし				
18	株式会社	3	82	73-89	2	3	4	5	2	0	2.14	2	3	1	1	0
19	有限会社	1	83	80-90	1.5	1	6	5	2	0	2.43	0	4	3	0	0
平均/合計		1.79	82.83	—	11.5	38	210	157	79	14	2.31	—				
構成比(%)						15.32	84.68	62.8	31.6	5.6						

\* 網掛け部分は、特異な分布を示しているものである。



グラフ1 平均入居期間と平均要介護度



グラフ2 平均年齢と平均要介護度

向と大きくずれるのは調査番号1(3、6、0)、7(8、15、4)、9(1、4、3)の3件であるが、その理由は特定できない。立地条件、受け入れの考え方など今後多角的に検討する必要があるだろう。

## 6 入居者の生活の様子

自由記述式の回答一覧を表6に示した。ただし、GHの内部での生活とGHの外部での



栃木県における痴呆性高齢者グループホームの現状について

表6 入居者の生活の様子について

調査番号	運営主体	生活の様子
1	社会福祉法人	<p>日 々：朝食準備、掃除、健康チェック、入浴、昼食準備、散歩、レクリエーション、洗濯 物片付け、合唱、夕食準備</p> <p>週 間：材料買い出し、夕食、お弁当をもって公園</p> <p>月 間：利用者お誕生会、手作り昼食会2回</p> <p>年 間：春（花祭り参加）、お花見</p> <p>他：併設のケアハウス・デイサービスの行事に参加</p> <p>生活圏：GH周辺、隣接温泉、散歩の公園、町のスーパー（車）、病院（車）</p> <p>外 出：スタッフと入居者で遠方にも外出・夕食ツアー、家族と散歩・美容院などへ（1～3ヶ月）</p> <p>外 泊：ほとんどなし</p> <p>面 会：家族・兄弟等入居以降1～2回、保護者の方1～2回/月</p>
2	社会福祉法人	<p>日 々：朝食準備、掃除、洗濯物干し、体操、お茶、昼食準備、買い物、入浴、趣味、夕食準備など</p> <p>週 間：あまり予定をつくらず、希望にあわせて夕食・買い物、畑の草むしり、水やり、収穫など</p> <p>月 間：季節行事</p> <p>年 間：外出イベント（年4～5回）、家族交流会</p> <p>他：</p> <p>生活圏：畑（徒歩10分）、買い物、市民センター、図書館、市営農村公園（車10km）</p> <p>外 出：スタッフと買い物（2回/週）、家族と夕食・買い物・通院など（1～2回/週、 1回/1～2ヶ月）</p> <p>外 泊：ほとんどなし、特定の人だけ（自宅や温泉に年3回くらい）</p> <p>面 会：家族・親戚が1～2回/週くらいから1回/1～2ヶ月</p>
3	社会福祉法人	<p>日 々：6時起床、朝食、9時掃除洗濯、お茶、12時昼食、入浴、外出他、散歩、18時夕食、自由時間、21時就寝</p> <p>週 間：買い物、受診</p> <p>月 間：外出、夕食</p> <p>年 間：お正月、納涼祭、運動会、クリスマス会</p> <p>他：</p> <p>生活圏：市内スーパー、近所の病院で受診、市内美容室など</p> <p>外 出：20分くらいのスーパーなどへの買い物、病院、美容室など。家族と30～40分。</p> <p>外 泊：自宅へ1泊程度。</p> <p>面 会：週2～3回から月1回程度まで。</p>
4	社会福祉法人	<p>日 々：午前中掃除、お茶、散歩、レク、食材買い物、午後入浴、お茶、余暇活動</p> <p>週 間：</p> <p>月 間：夕食、苑外レク</p> <p>年 間：季節の行事、行事食 他：</p> <p>生活圏：日中居室にはあまりこもっていない、苑内の庭の散策</p> <p>外 出：1日おきに食材の買い物、夕食、苑外レク、家族と散髪、夕食、ドライブ</p> <p>外 泊：お盆、お正月の外泊</p> <p>面 会：少なくとも月に1回（少なくない）</p>
5	医療法人	<p>日 々：朝食後、自室の掃除、お茶、散歩、昼食、自由時間、入浴、お茶、夕食準備の手伝い、夕食、自由時間</p> <p>週 間：買い物1回</p> <p>月 間：夕食（いきつけの定食屋さん1回/月）、回転寿司（1回/3ヶ月）</p> <p>年 間：誕生会、隣の老健の行事に参加（敬老会、夏祭り、運動会、クリスマス会） 流しそうめん大会、もちつき大会、小旅行</p> <p>他：</p> <p>生活圏：ホーム内共有スペース、隣接する老健に散歩、車でドライブ</p> <p>外 出：スタッフと買い物しばしば、個人的に家族と夕食・ドライブ</p> <p>外 泊：家族と</p> <p>面 会：家族2～3回/月、その他友人</p>
6	医療法人	<p>日 々：モーニングコール、本人・家族の希望を聞き本人中心の目標を立てて個別の生活や 特性を活かし、健康管理・安全を確保しながら生活を送るようにしている</p> <p>週 間：</p> <p>月 間：併設の老健施設の行事に月1～2回参加。夕食、誕生会。敷地が広いので花・野菜作り</p> <p>年 間：</p> <p>他：</p> <p>生活圏：敷地が広いのが魅力。朝食後、散歩できる方は個々に散歩</p> <p>外 出：家人・職員とともに自由に外出。届出用紙を提出</p> <p>外 泊：行き先・連絡先を明記し、届出用紙を提出</p> <p>面 会：問題ない限り自由</p>
7	医療法人	<p>日 々：8時起床、朝食、掃除、お茶、12時昼食、レク/入浴、おやつ、18時夕食、片づけ、 21時就寝</p> <p>週 間：夕食・ドライブ週1回</p> <p>月 間：</p> <p>年 間：</p> <p>他：季節感のある行事、昔懐かしいことなど</p> <p>生活圏：徒歩圏（散歩、家庭菜園、別ユニットでの合同レク、併設老健イベント）</p> <p>外 出：食材の買い出し2日に1回（車）、定期検診2週間に1回</p> <p>外 泊：家族と外泊（自宅または家族宅）</p> <p>面 会：毎週～数ヶ月に1度</p>

8	株式会社	<p>日 々：散歩、台所仕事手伝い、自室の掃除(他の人の分も)、買物(希望者)、入浴、レクリエーション</p> <p>週 間：</p> <p>月 間：遠足(1、2回)、音楽療法、マジックショー、民話、日本舞踊</p> <p>年 間：お花見、夏祭り、クリスマス会、節分、誕生会</p> <p>他：菜園にて野菜の収穫、図書館(隣接公共図書館)</p> <p>生活圏：徒歩1から2km圏(散歩)、車5～10分圏(買い物)</p> <p>外 出：家族と1～3回/月、スタッフと1～2回/月、医者1～4回/月</p> <p>外 泊：家族と1～2回/月(3～4名のみ)、なし(15名程度)</p> <p>面 会：1、2回/週～1回/月</p>
9	有限会社	<p>日 々：基本的には日常生活を中心に、居間(TV・ソファー)で会話(回想法)や遊びを行い、天候によりドライブ・園芸・その他を実施。入浴は毎日。</p> <p>週 間：</p> <p>月 間：1月-正月外泊・神社参拝、2月-節分・公園散策、3月-雛祭り・避難訓練、4月-健診・花見、5月-レクリエーション・ピクニック、6月-レクリエーション・ピクニック、7月-七夕、8月-お盆外泊・外出、9月-十五夜、10月-温泉旅行、11月-菊人形花見・寺参拝、12月-ソーマス・年末外泊外出。</p> <p>年 間：</p> <p>他：他施設の行事に随時参加</p> <p>生活圏：ホーム内及び当ホーム周辺。</p> <p>外 出：外出可能な者が、家族と当ホーム市内や周辺をドライブ(食事)。1～3時間程度。</p> <p>外 泊：外泊可能な者が家族と自宅へ1～3日間程度(強制ではない)、年末年始とお盆に。</p> <p>面 会：家族(知人)が30分～1時間程度、土日及び生活利用料支払い日に面会。</p>
10	有限会社	<p>日 々：5～6時起床、7時朝食、お茶、買い物外出、12時昼食、ミーティング、お茶、入浴、17時夕食、自由、21時就寝。</p> <p>週 間：あらかじめ決めず、会話の中から行事を考えていく。お寿司パーティー、外出など。</p> <p>月 間：あらかじめ決めず、会話の中から行事を考えていく。お誕生会、お祭りなど。</p> <p>年 間：四季の行事</p> <p>他：</p> <p>生活圏：外出の範囲</p> <p>外 出：スタッフとスーパー、美容室、市役所、散歩、外食など。家族と旅行、外食、買い物など。</p> <p>外 泊：GHの旅行。自宅に泊まることはない。</p> <p>面 会：子が月1～2回から、親戚年に1～3回程度まで。</p>
11	NPO法人	<p>日 々：起床(4:30-8:30) - 朝食-清掃-おやつ-散歩-昼食-テレビ-買い物-レクリエーション-庭の手入れ-洗濯物たたみ-おやつ-入浴-夕食-就寝</p> <p>週 間：</p> <p>月 間：</p> <p>年 間：4月-花見、5月-竹の子掘り、6月-花見、7月-1泊旅行、8月-GH主催祭り、9月-ボランティアフェスタ、10月-紅葉見物、11月-さんま祭り、12月-*餅つき、1月-正月1泊帰宅、2月-新年会、3月-バザー、臨時で買い物、日光方面へドライブ、月1回の昔語り、絵画教室</p> <p>他：</p> <p>生活圏：天気の良い日はできるだけ外に出る機会を設けており、隣の市の娘宅にも行かれる。</p> <p>外 出：年1回の1泊旅行はスタッフと利用者全員で外出。日常は月1回施設の車にて全員で外食したり、周辺のスーパーへ行ったりする。</p> <p>外 泊：正月は自宅に1泊外泊をお願いしているが、1名は拒否されている。1名の方は毎月娘宅に2泊3日の外泊をされている。</p> <p>面 会：月1回の利用料納金時に面会されている。家族によって差があり、2名は月2回程度。</p>
12	社会福祉法人	<p>日 々：起床、朝食、清掃、お茶、自由時間。昼食後買い物(職員と1、2名が一緒に行く)。入浴。</p> <p>週 間：現在検討中</p> <p>月 間：現在検討中</p> <p>年 間：現在検討中</p> <p>他：</p> <p>生活圏：周辺散歩、近隣スーパーなど</p> <p>外 出：ユニットごとにスタッフと買い物(車で毎日)1～2名</p> <p>外 泊：現在のところなし</p> <p>面 会：同居者が1回/週程度</p>
13	社会福祉法人	<p>日 々：</p> <p>週 間：</p> <p>月 間：</p> <p>年 間：</p> <p>他：自然を生かした土とのふれあいを中心にスケジュールを構成</p> <p>生活圏：日ホーム内。都賀町。</p> <p>外 出：スタッフと買い物(毎日)、外食</p> <p>外 泊：家族宅(週1回～月1回)</p> <p>面 会：家族</p>
14	社会福祉法人	<p>日 々：清掃、お茶、生け花・押し花、昼食下ごしらえ、買い物、クラブ活動、入浴、通院、夕食準備</p> <p>週 間：</p> <p>月 間：行事担当者3名で毎月企画を立てる(ドライブ、外食、花見、納涼祭、花火、買い物など)</p> <p>年 間：季節ごとの行事、国民の行事など(お正月、節分、ひな祭り、紅葉狩り、芋煮会、クリスマス、大晦日など)</p> <p>他：</p> <p>生活圏：ホーム周辺散歩、同施設内の活動・行事参加、地域行事参加、ドライブ(食事会、買い物)</p> <p>外 出：ホームヘルパー、家族と通院、買い物、食事数回/月</p> <p>外 泊：2～3割の人が家族と自宅(お正月・お盆等2泊～3泊)</p> <p>面 会：家族、身内、知人(毎日、2～3回/月)</p>































